

実地研修（現場演習）評価票：喀痰吸引 気管カニューレ内部吸引（人工呼吸器装着者：侵襲的人工呼吸療法）

研修受講者氏名	
本票ページ数	/

実施手順	評価項目	評価				
		() 回目	() 回目	() 回目	() 回目	() 回目
		月日	月日	月日	月日	月日
	時間	/	/	/	/	/
STEP4： 準備	訪問時、第一回目の流水と石け んによる手洗いを済ませてお く。 医師・訪問看護の指示を確認す る。 利用者本人あるいは家族に体調 を聞く。 気管カニューレに接続した吸引器に おびた人の呼吸状態を確認し、 少しコネクターをゆるめておい てもよい。					
STEP5： 実施	利用者本人から吸引の依頼を受 ける。あるいは、利用者の意思 を確認する。 吸引の環境、利用者の姿勢を整 える。 気管カニューレの周囲、固定状 態およびたんの貯留を示す呼吸 音の有無を観察する。 流水と石けんで手洗い、あるいは 速乾性擦式手指消毒剤で手洗 いをする。 必要に応じきれいな使い捨て手 袋をする。場合によってはセッ ションを持つ。 吸引カテーテルを不潔にならな いように取り出す。 吸引カテーテルを吸引器に連結 した接続管につなげる。 吸引器のスイッチを入れる。 （薬液消毒法の場合）吸引カテー テルの周囲、内腔の消毒液を取り除く ため、専用の水を吸引し、周囲も洗 う。吸引カテーテル先端の水をよく 切る。 決められた吸引圧になっている ことを確認する。 吸引カテーテルの先端の水をよ く切る。 「吸りますよ～」と声をかけ る。 人工呼吸器から空気が送り込まれ、 胸が盛り上がるのを確認後、フレキ シブルチューブのコネクターを気管 カニューレからははずし、フレキシ ブルチューブをきれいなタオルの上 に置く。 手袋をつけた手（またはセッション）で 吸引カテーテルを気管カニューレ内 （約10cm）に入れる。 カテーテルを左右に回し、ゆっ くゆっ引き抜きながら、15秒以内 で吸引をする。 吸引を終了したら、すぐにコネ クターを気管カニューレに接続 する。 吸引カテーテルの外側をアルコール 綿で拭き取った後、洗浄水を吸って 内腔を洗い流してから、再度吸引す る。 （薬液消毒法の場合）吸引後吸引 カテーテルは外側をアルコール綿で 拭き取った後、水を吸って内腔を洗 い流してから、保存容器の消毒液を 吸引カテーテル内に吸引する。 吸引器のスイッチを切る。（吸 引終了） 吸引カテーテルを接続管からはず し、破壊する。 （薬液消毒法の場合）消毒液の入 った保存容器にもどす。 手袋をはずす（手袋着用の場合） またはセッションをもとに戻 す。手洗いをする。 利用者に吸引が終わったことを 告げ、確認できる場合、たんが これたかを確認する。 利用者の顔色、呼吸状態等を観 察する。 人工呼吸器が正常に作動してい ること、気道内圧、酸素飽和度 等をチェックする。 体位を整える 吸引した物の量、性状等につい て、ふり返り確認する。					
STEP6： 結果確認報告	吸引びんの廃液量が70～80% になる前に廃液を捨てる。 洗浄用の水や保存容器の消毒液 の残りが少なければ取り換え る。					
STEP7： 記録、報告	評価票に記録する。ヒヤリハッ トがあれば報告する。					
アの個数 計						

* 自由記載欄

() 回目
() 回目
() 回目
() 回目
() 回目